

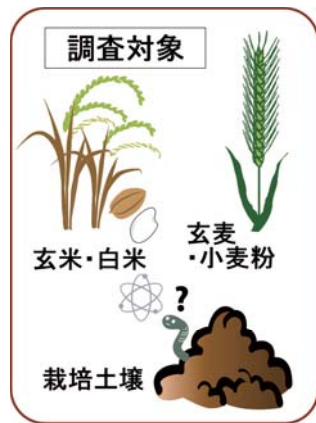
50年間続く 放射能調査



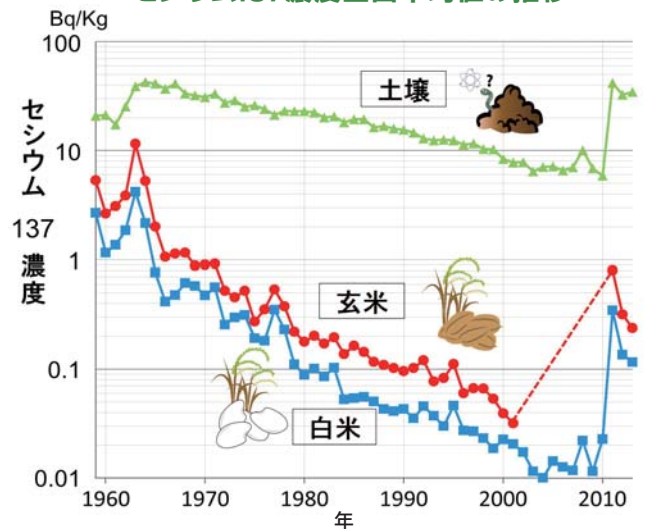
研究所では1959年から、米・麦およびその栽培土壌の人工放射性物質の濃度を、国内各地で測定し、公開してきました。東京電力福島第一原子力発電所事故の際には、そのデータが、農地から玄米への移行係数の決定に活用されました。

米・麦と栽培土壌の放射能を長期モニタリング

原水爆実験やその後の原子力施設事故による放射能汚染の状況を知るため、米と麦を栽培し、収穫物と栽培土壌中のストロンチウム90とセシウム137の濃度を毎年測定しています。



セシウム137濃度全国平均値の推移



データは1986年のチェルノブイリ原発事故や1999年のJOCの臨界事故時にも活用されました。

WEBで公開

2012年までの調査結果は、研究所のウェブサイトで公開しています。

<http://vgai.dc.affrc.go.jp/vgai-agrip>

主要穀類および農耕地土壌の¹³⁷Srと¹³⁷Cs分析データ一般公開システム

<検索条件>

国産年: 1959 ~ 2010

日本 五麦 小麦 小麦粉 水田土壌 畑作土 水田土壌化学性 畑作土壌化学性

90Sr濃度 137Cs濃度

グラフの表示

単位:mBq/kg #:平均±標準偏差

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
試料数	15	14	15	15	12
最高値	78	92	85	89	69
最低値	2	2	2	1	2
日本海側*	32.7 ± 28.5	36.7 ± 33.0	32.7 ± 29.8	26.1 ± 30.7	18.8 ± 28.1
太平洋側*	6.4 ± 3.8	8.7 ± 6.0	9.9 ± 8.5	9.5 ± 12.4	6.3 ± 5.3

移行係数の決定に活用

平成23年4月に、政府は土壌から玄米への放射性セシウムの移行係数(玄米濃度/土壌濃度)を0.1と決め、作付け制限を実施しました。



この移行係数を決める時、長期モニタリングのデータが使われました。

放射能の高いお米が生産されないようにしたんだね

2014年以降のデータについても、今後ウェブサイトで公開します。また、福島県などに新たな調査地点を加え、原発事故の土壌や作物に対する長期の影響を調べています。